

ま え が き

グローバルコミュニケーション教育センター（CEGLOC）日本語論集 35 号が刊行されました。研究ノート 1 件、報告 4 件が収録されています。

現在、筑波大学には、約 120 の国・地域から、約 2,600 人の外国人留学生在籍しています。平成 30 年の JASSO のデータによると、筑波大学は、国立大学では 3 番目、全国の私立大学を合わせた中でも 7 番目に多い人数となっています。留学生の数から見れば、学部生の 5 倍の大学院生が在籍しているというのも筑波大学の特徴となっています。

文部科学省より認定を受けてきた、大学間共同利用拠点「日本語・日本事情遠隔教育拠点」が、令和 2 年 4 月より新たに 5 年間、第 3 期の認定を受けました。「日本語教育の推進に関する法律（令和元年法律第 48 号）」が、令和元年 6 月 28 日に公布、施行され、今後の日本社会において日本語教育の果たす責任は増しており、「日本語・日本事情遠隔教育拠点」としてもミッションを果たしてまいります。

日本語教育振興協会主催の令和元年度「日本留学 AWARDS」の「国公立大学部門」と「大学院部門」において筑波大学が、本年も選出されました。この賞は日本語学校の教職員が選ぶ留学生に勧めたい進学先ということで投票の結果選ばれた栄えある賞ですが、その中で授賞理由に日本語教育の充実をあげていただきました。（日本留学アワードの公式ウェブサイト <http://www.ryugakuawards.org/>）

CEGLOC 日本語教育部門の専任教員は、新たに 2 名が加わり、8 名体制となりました。本論集をはじめとする日本語教育に関する日頃の研究成果が、広く学内外の日本語教育関係者の貴重な資料となることを期待しております。

2020 年 3 月

筑波大学
グローバルコミュニケーション教育センター
日本語教育部門長 小野 正樹